

西洋美術史ゼミ

第5回

中世I（ビザンティン美術、初期中世美術）

発表者 あますん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。





前回の内容(歴史)

- 前回は**古代ローマ**について扱いました。
- 先住民であるエトルリア人を追放した後、ローマでは貴族が実権を握る**貴族共和制**が行われていましたが、平民による**身分闘争**が起こり貴族と平民の権利は等しくなりました。
- その後**ポエニ戦争**でカルタゴと戦い、勝利はしたものの政治が不安定になりました。これをオクタウィアヌスが収め、**帝政**が始まりました。
- それから400年ほど経ちローマ帝国は**東ローマ (ビザンツ) 帝国**と**西ローマ帝国**に分裂しました。

前回の内容(美術)

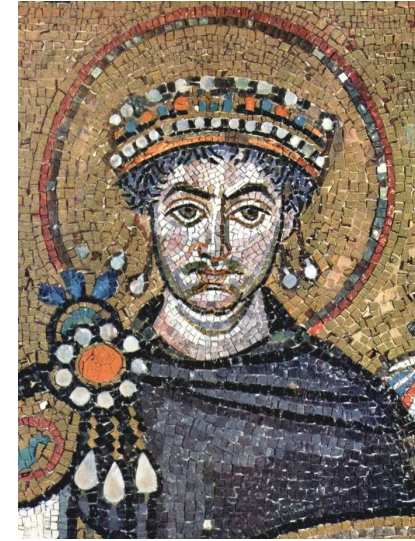


- **エトルリア美術**はダイナミックであることが特徴で、**ウルカ**という美術家が居ました。
- **ローマ美術**はギリシアの模倣から始まり、**バシリカ**（多目的公会堂）や**円形闘技場**などの建築が主に発展しました。
- **初期キリスト教美術**はカタコンベ等の**葬礼美術**から始まり、帝国に公認された後は**教会堂**の建築が盛んになりました。

この写真の作成者 不明
な作成者は [CC BY-NC](#)
のライセンスを許諾さ
せています

本日の内容

- ビザンティン美術
- 初期中世美術



この写真の作成者 不明な作成者は
CC BY-SA-NC のライセンスを許諾さ
れています

以上の事柄について、時代背景→美術の順番で説明を行います。

全体の概略

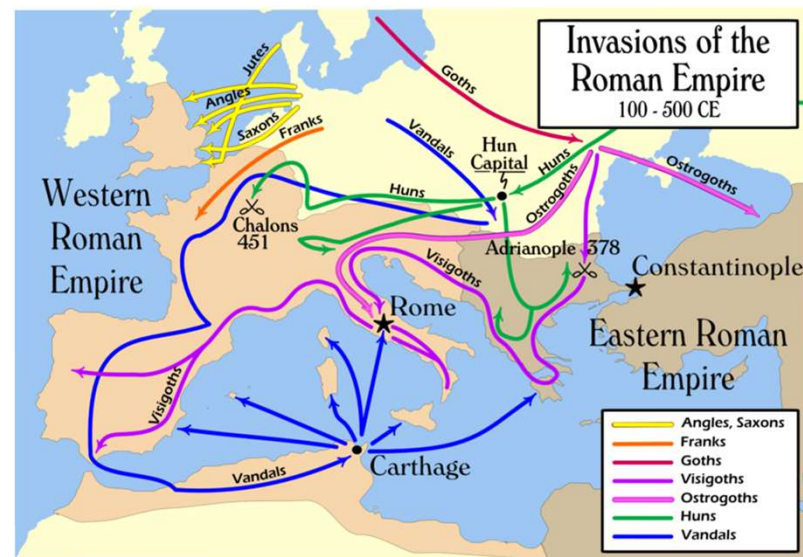
- 今回はローマ帝国が分裂した後の**東ローマ（ビザンツ）帝国**と、西ローマ帝国の後続である**フランク王国**における美術について扱います。
- 同じ国から派生した二つの国ですが、それぞれの個性がどのように発展していくかに注目して聴講していただければと思います。

本日の内容

- **当時の情勢について：ゲルマン人の大移動**
- 当時の情勢について：ビザンツ帝国
- ビザンティン美術
- 当時の情勢について：フランク王国
- 初期中世美術

当時の情勢について:ゲルマン人の大移動

- **ゲルマン人**は数十の部族に分かれ、半農半牧の生活をしていました。
- 彼らは国という形態はとっていなかったものの、最高意思決定機関である**民会**が置かれていた。
- ローマ帝政末期に大部族に統合されていたゲルマン人の諸部族は、人口増加に伴う耕作地不足やフン族の侵入のために、**4世紀後半に大移動**を開始した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 当時の情勢について：ゲルマン人の大移動
- **当時の情勢について：ビザンツ帝国**
- ビザンティン美術
- 当時の情勢について：フランク王国
- 初期中世美術

東ローマ帝国の歴史

① 395年 東ローマ帝国誕生

第1次
黄金期
↓

② 6世紀 ユスティニアヌス帝在位 → 最盛期
(527~565)

③ 7世紀 イコノクラスタ(聖像論争)

(衰退)

第2次黄金期
↓

④ 9~11世紀 マケドニア朝 → 一時復興
(1261年 滅亡)

当時の情勢について:ビザンツ帝国(1)

- ローマ帝国は395年に**東ローマ帝国**と**西ローマ帝国**に分裂した。西ローマ帝国は476年に分裂したものの、東ローマ帝国は長くまで続いた。
- 東ローマ帝国はその首都コンスタンティノープルの旧名ビザンチウムにちなみ**ビザンツ**（**ビザンティン**）**帝国**と呼ばれる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について:ビザンツ帝国(2)

- 6世紀になると、**ユスティニアヌス大帝**が最盛期を築き、ビザンツ帝国は版図を広げ、地中海世界を支配した。(前スライドの色付きの部分を含ませたものが最大時の領域である)
- ビザンツ帝国には**ギリシア正教会**が存在した。これは西方のローマ・カトリック教会に対する**東方教会**であった。首長の任命権をビザンツ皇帝が持ち、教会は帝国の支配下であった。



この画像は、作者不明な作品で、CC BY-SA のライセンスを許諾されています。

当時の情勢について:ビザンツ帝国(3)

- ユスティニアヌス大帝の死後（565年）、ビザンツ帝国の最盛期が終わり、帝国は衰退していった。
- 762年にビザンツ帝国のレオン三世が**聖像禁止令**を発令した。これは**偶像崇拜をきびしく否定**するものだったが、これは東西教会が分裂する原因となった。（フランク王国の項で後述）



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について:ビザンツ帝国(4)

- **マケドニア朝**が興り、10世紀以降は一時的に勢力・領土を回復したものの、11世紀後半にトルコ系イスラーム王朝の**セルジューク朝**が侵入した。これに対し十字軍遠征が開始されたが、十字軍は首都を占領し**ラテン帝国**を建国した。
- 1261年にビザンツ帝国は都を回復したものの、1453年に**オスマン朝**に滅ぼされた。

本日の内容

- 当時の情勢について：ゲルマン人の大移動
- 当時の情勢について：ビザンツ帝国
- **ビザンティン美術**
- 当時の情勢について：フランク王国
- 初期中世美術

ビザンティン美術(1):概要

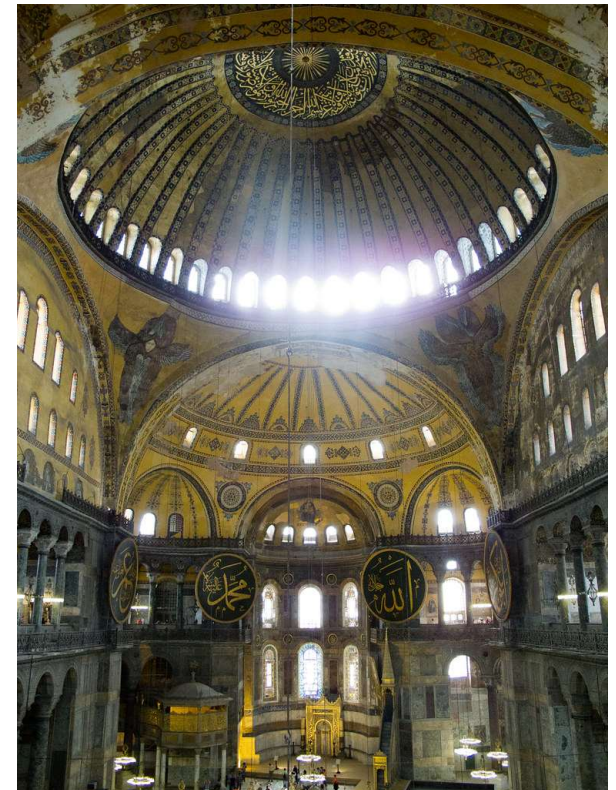
- **ビザンティン美術**は初期キリスト教美術を母胎とし、そこにヘレニズム美術や古代アジアやササン朝ペルシアからの影響が加わった**東方特有のキリスト教美術**である。
- 特徴は、宮廷の儀式的な側面にかなう**厳かな様式**や、精神的、霊的なものを求める**理知的な傾向**、鮮やかな色彩や金を用いる**装飾性**であった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

ビザンティン美術(2): 第一次黄金期

- **ユスティニアヌス大帝**が皇帝につき、ビザンツ帝国の最盛期を迎えた時期を第一次黄金期と呼ぶ。
- この時代におけるもっとも重要な建築物の一つは**ハギア・ソフィア大聖堂**である。
- この建築物は旧来のバシリカ式教会堂に巨大な円蓋を架けた斬新なものである。**円蓋式バシリカ**という新しい建築様式を生み出し、後世に多大な影響を与えた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

ビザンティン美術(3): 教会装飾

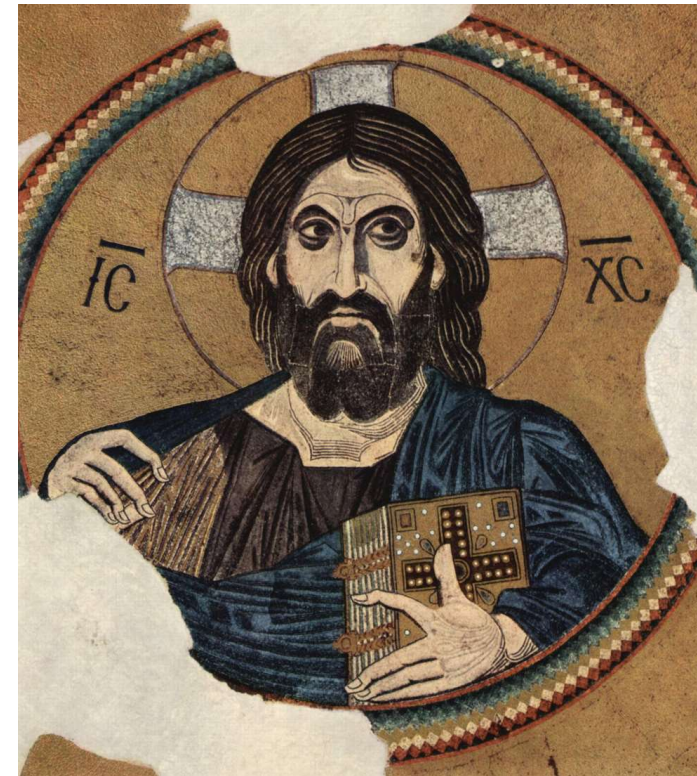
- 絵画や浮彫彫刻では、古代ギリシア・ローマに由来する**自然主義的な表現**が成熟する一方で、次第に**平面的で、神の超越性や精神的強度を描く新たな表現**が誕生した。
- この二つの造形伝統は共存、融合し、1000年にわたるビザンティン美術の基礎を築いた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

ビザンティン美術(4):イコン

- 6世紀には**イコン**（木や象牙、金属などでできた板に描かれたり彫られたりしたキリスト、聖母、成人などの画像）への崇拝が高まっていた。
- また、当時は**写本制作**、**象牙彫刻**、**金属細工**などの工芸制作も活発に行われており、以後の図像の形成や伝播に貢献した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/) のライセンスを許諾されています

ビザンティン美術(5): イコノクラスム

- 前述したイコンへの崇拝はキリスト教で禁止されている**偶像崇拝**にあたる可能性があり、論争が絶えなかった。この論争を**イコノクラスム**（聖像論争/聖像破壊運動）と呼び、実際にイコンや聖像を破壊する者もあらわれた。
- これにより帝国内の作品が多く破壊されたが、聖像擁護派が勝利し、美術も円熟期に向かった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

注：この画像は時代が違いますが
このようなイメージで捉えてください

ビザンティン美術(6): 第二次黄金期

- 9世紀後半に**マケドニア朝**が興り、勢力を取り戻したビザンツ帝国は第二の黄金期を迎える。
- 聖像論争で一時的に衰退していた美術は、**ヘレニズムの優雅な古典伝統**に立ち返り、復興することとなる。
- これに伴い、教会堂の建築においても均衡のとれた**集中式建築**が流行した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

ビザンティン美術(7): 後期・ポストビザンティン美術

- 11世紀にマケドニア朝が滅んだあと、**コムネノース朝**が興った。
- この時代の特徴は**感情表現への洞察**で、特にイエスを十字架上で失う**聖母マリアの悲しみ**を注意深く表現した。
- その後十字軍に首都が占領され、美術が停滞したが、首都を奪還するとかつての栄光を取り戻し、**写実的な繊細で典雅な様式が生まれた**。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 当時の情勢について：ゲルマン人の大移動
- 当時の情勢について：ビザンツ帝国
- ビザンティン美術
- **当時の情勢について：フランク王国**
- 初期中世美術

フランク王国の歴史

- ① 481年 フランク王国成立
- ② 481~751 メロヴィング朝
(7世紀 10/7ラヌ)
- ③ 751~987 カロリング朝
- ④ 768~814 カール大帝在位 → カロリング = ルネサンス
(シャルル-ヌ)
- ⑤ フランク王国分裂

当時の情勢について: フランク王国(1)

- ゲルマン人の大移動の際に、ガリア北部へ**フランク人**が移動した。ここで都市が発達し、481年にメロヴィング家の**クローヴィス**が全フランク人を統一し**フランク王国**を建国した。
- **メロヴィング朝** (481~751) ではクローヴィスが**アタナシウス派キリスト教** (正統派) に改宗し、ローマ教会やローマ系住民と融和し、ガリアの支配を安定させた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について: フランク王国(2)

- メロヴィング朝の時代において、ビザンツ皇帝レオン三世が**聖像禁止令**を發布した。
- これは**偶像崇拝を否定するもの**であったが、当時ローマ教会は聖像を用いてゲルマン諸族へ布教していたため、東西教会の対立が深まった。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について: フランク王国(3)

- **カロリング朝** (751~987) では、**ピピン三世** がローマ教皇の下で王位についた。
- ピピンは獲得した土地を教皇に寄進し、フランク王国とローマ・カトリック教会の提携を強めた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について: フランク王国(4)

- カロリング朝の時代、**カール一世**が外征で活躍し、西ヨーロッパの広大な領地を支配した。
- カールは内政でも活躍したが、特筆すべきは学者を宮廷に招き、学問を奨励したことであった。これを**カロリング=ルネサンス**という。
- これらの活躍の結果、カールは戴冠され、**カール大帝**（**シャルルマーニュ**）と呼ばれるようになった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について: フランク王国(5)

- カール大帝の子ルートヴィヒ1世の死後、相続争いが起こり、**フランク王国は3つ**（東フランク王国、西フランク王国、イタリア王国）**に分裂した**。それぞれが今日のドイツ・フランス・イタリアの起源である。
- カロリング朝断絶後、イタリア王国は分裂したが、東フランク王国は**神聖ローマ帝国**として、西フランク王国は**カペー朝**として存続することとなる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 当時の情勢について：ゲルマン人の大移動
- 当時の情勢について：ビザンツ帝国
- ビザンティン美術
- 当時の情勢について：フランク王国
- **初期中世美術**

初期中世美術(1):メロヴィング朝

- メロヴィング朝の文化は、フランク族は流浪的な民族であったため、堅牢な石材建築を作った**古代ギリシア・ラテン的な文化とは対照的**であった。
- 彼らはむしろ持ち運びのできる**貴金属工芸**の分野でその優れた技術を発揮している。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

初期中世美術(2):メロヴィング朝2

- また、彼らは修道院も多く建立したが、現存するものは少ない。
- 現存している希少な例として、**サン＝ジャン洗礼堂**がある。
- 壁面装飾の**多色性**と、多くの文化の**混合性**が初期中世美術の特徴である。



初期中世美術(3):メロヴィング朝3

- **写本制作**についても盛んに行われた。
- メロヴィング朝写本は花や鳥、魚といったモチーフを**幾何学的に構成する**もので、古代の**自然主義的表現**とは対照的であった。
- これは彼らが貴金属工芸から多くの技術を学んでいたことを示している。



初期中世美術(4):カロリング朝

- カロリング朝のカール大帝は**カロリング＝ルネサンス**を行い、古代ローマ帝国の威光を一時的に蘇らせた。
- カール大帝の文化への献身の結果、この時代には**ケルト＝ゲルマンの土着的伝統**、**東方のキリスト教文化**、**古代ローマの古典主義**が混淆した特異な**折衷文化**が花開くこととなる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

初期中世美術(5):カロリング朝2

- カロリング朝の建築の特徴は**アーヘンの宮廷礼拝堂**に集約されている。
- この建築は**バシリカ式**の長方形となっており、また建築装飾では**組紐文**が象徴的に用いられている。以降に登場する**ロマネスク様式**では、このような様式が引き継がれていくこととなる。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

初期中世美術(6):カロリング朝3

- また、カロリング朝美術の特質をよく表しているのは豪華な**彩色写本**である。
- 彩色写本で注目されるのは「**古代復興**」であり、メロヴィング朝で衰退した古典的なモチーフや人物表現をキリスト教の文脈上で復興させようとしている。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/) のライセンスを許諾されています

初期中世美術(7):カロリング朝4

- 当時活発に写本の制作活動が行われていたのはアーヘンの宮廷周辺の工房（アダ派）で、これは一般に「**アダ写本**（アダ福音書）」と呼ばれる。
- この写本はカロリング＝ルネサンスによる古典の研究と密接に関わりがあったため、**古典的様式を踏襲**していることが特徴である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日のまとめ

- **ビザンティン美術**では、第一次黄金期においては**円蓋式バシリカ**が生まれたり、**イコン**が発展したりした。**イコノクラスム**後の第二次黄金期では、**ヘレニズム期の古典的伝統**に立ち返った。
- **初期中世美術**では、メロヴィング朝においては**貴金属工芸**や**写本**が多く制作された。カロリング朝においては**カロリング=ルネサンス**によって土着文化、キリスト教文化、古典主義の三者が融合した文化が開いた。

次回の内容

- 次回はロマネスク美術とゴシック美術について学びます。
- 十字軍遠征が起こり、ヨーロッパ各地で盛んに行われた文化交流の影響を受け生まれたロマネスク美術や、その延長線上に存在するものの対照的なゴシック美術はどのように発展していったのでしょうか。
- 関連ワード
 1. 聖遺物崇拜
 2. ノートルダム大聖堂



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています